

用語集

1. データサイエンス教育

データサイエンスとは、数学や統計学、機械学習などをベースに、莫大で多様なデータの分析や解析を行い、有益な洞察を導き出す学問のことをいう。山口大学のデータサイエンス教育は、初年次教育と専門教育においてそれぞれ行っている。初年次教育においては、データサイエンスの考え方や初歩的なツールの使い方や活用事例等について学ぶ。専門教育においては、各学部の教育体系に合わせてレベルを決めた大学独自基準に基づいて、データからの意味抽出やAIの基本的な概念と手法や応用例等について学ぶ。

2. イノベーション・エコシステム

行政、大学、研究機関、企業、金融機関等の様々なプレーヤーが相互に関与し、絶え間なくイノベーションが創出される、生態系システムのような環境・状態をいう。

3. イノベーション・commons

ソフト・ハードの取組みが一体となり、対面とオンラインとのコミュニケーションを融合させながら、あらゆる分野、あらゆる場面で、あらゆる参加者が「共創」できるキャンパス。教育研究施設だけでなく、食堂や寮、屋外空間等も含めキャンパス全体が有機的に連携した「共創」の拠点のことを指す。ここでは、産学公連携共同拠点もイノベーション・commonsの機能の一部と考えている。

4. Society5.0

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会のこと。狩猟社会（Society1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。

5. DX 教育

DXとは“Digital Transformation”の略であり、山口大学のDX教育では、DXの概念、DXが社会にもたらす変革を正しく理解し、実践に繋げるため、デザイン思考をはじめとするDXを推進していくための考え方やそれに必要となるスキルを身に付けることで、社会における様々な課題をDXによって解決に導ける人材を育成する。

6. FD・SD

FDとは“Faculty Development”の略で、大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修を意味し、SDとは“Staff Development”の略で、大学の管理運営や教育・研究等に関わる教職員に必要な知識及び技能を習得させ、ならびにその能力及び資質を向上させるための研修を意味する。

7. 学力の三要素

「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について（答申）（中教審第177号）」において示された①「基礎的な知識・技能」、②「思考力・判断力・表現力等の能力」、③「主体的に学習に取り組む態度・多様性・協働性」の3つ

8. リカレント教育

学校教育からいったん離れて社会に出た後も、それぞれの人の必要なタイミングで再び教育を受け、生涯にわたり周期的に仕事と教育を繰り返すこと。

9. トップダウン型産学公連携研究拠点

「やまぐち型地域共創システム」の産・学・公のトップが「共創の場」において議論し、決定した重要研究開発課題を解決するために学長が認定する「研究拠点」

10. ギャップファンド

事業化に向けて、研究機関に属する研究成果と事業化との間のギャップを埋めるため、仮説検証のためのデータ（実験結果、計算結果）を得て新しい概念や理論、原理、アイデアの実証（Proof of Concept, PoC）を行う、あるいは、試作品製作、ビジネスモデルのブラッシュアップ等を進めるための資金

11. グローバルニッチトップ研究

グローバルニッチトップとは、ニッチ（隙間）分野における世界市場でのトップ企業を指す経済用語であり、ここでは、ニッチ分野における世界トップレベルの競争力を有する研究のことをいう。

12. テニュアトラック制度

任期付きで雇用された若手研究者が、自立した研究環境で研究・教育者としての経験を積み、公正で透明性の高い最終審査によって常勤教員となるキャリアパスを提供する制度

13. 重点連携大学

山口大学独自の取組であり、海外の大学・研究機関と研究分野を主体とした国際連携活動を強化することにより研究レベルの高度化と学術を通じた国際貢献を行うことを目的として、特に本学の研究力向上に繋がると期待できる海外の大学を重点連携大学に選定している。

14. 地域連携プラットフォーム

複数の大学等高等教育機関、地方公共団体、産業界等とが恒常的に対話し、連携を行うための体制を指し、これらの構成員が連携し、地域社会のビジョンや課題、高等教育を取り巻く現状と将来像について共有・理解を図り、お互いの立場を越えて恒常的に議論を交わすことができる会議体

15. 地域未来創生センター

地域社会との多様な連携の推進及び学内における地域連携活動の情報の集約を行い、本学の教育・研究資源の地域社会での有効な活用を図り、地域の課題解決、地域の「知」の創造と継承及び地域社会の創生に資することを目的に設置した学内組織の名称

16. 共創の場

地域連携プラットフォームの議論により抽出された地域課題解決プロジェクトを指す。地域共創の場とも呼ばれる。

17. アカデミック・フォレスト

山口大学吉田キャンパス、小串キャンパス、常盤キャンパスのそれぞれの図書館内に設置している、会話やディスカッションをしながら、アクティブな学習を行いたい時に利用できる施設の名称

18. リスキリング教育

新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適応するために、必要なスキルの獲得を目的とした教育

19. オープンアクセス化

誰でもWebを通じて無料で自由に資料にアクセスできるようにすること。

20. SOGI ガイドライン

学生と教職員の多様な性的指向（Sexual Orientation）や性自認（Gender Identity）を尊重し、積極的に支援する仕組みを構築するためのガイドライン

21. クロスアポイントメント制度

研究者等が大学、公的研究機関、企業の中で、二つ以上の機関に雇用されつつ、一定のエフォート管理の下で、それぞれの機関における役割に応じて研究・開発及び教育に従事することを可能にする制度

22. ダブル・ディグリー・プログラム

我が国と外国の大学が、教育課程の実施や単位互換等について協議し、双方の大学がそれぞれ学位を授与するプログラム

23. ジョイント・ディグリー・プログラム

連携する大学間で開設された共同プログラムを修了した際に、複数の大学が共同で単一の学位を授与するプログラム

24. 国立大学法人ガバナンス・コード

政府の「統合イノベーション戦略（平成30年6月15日閣議決定）」において、「内閣府（科技）及び文部科学省の協力の下、国立大学等の関係者は、大学ガバナンス・コードを2019年度中に策定」することとされたことを受け、大学の特性に鑑み、国立大学協会が、様々なステークホルダーの声を反映し、広く社会に受け入れられるものとするため、文部科学省、内閣府の協力を得て策定したもの。国立大学法人は、本ガバナンス・コードを基本原則としてそれぞれの特性等を踏まえた取り組みを実施し、教育・研究・社会貢献機能を最大限発揮するための経営機能を高め、自ら強靱なガバナンス体制を構築する。